

社会

選択・判断する力を養う社会科学習の在り方 ー第4学年の発達に合わせた地域問題の学習を通してー

習志野市立谷津南小学校教諭（前八千代市立勝田台小学校教諭） ^{え ば し} 江橋 ^{こうすけ} 公祐

本研究は、第4学年の児童の発達段階を考慮し、多角的な選択・判断を身に付ける素地を養うための効果的な指導の在り方を明らかにすることを目的としたものである。目指すべき選択・判断する力、地域問題、児童の発達といった観点に着目し、「自然災害からくらしを守るー命を守れ！ 子供避難所運営委員会！ー」という単元開発を行った。

第4学年の児童が社会的事象を身近に捉え、多角的な視点を取り入れながら、選択・判断する力を育成するためには、身近な地域の問題を取り扱い、その解決のために、市役所や地域住民といった異なる立場の意見を段階的に取り入れる学習を行うことが、有効であることを明らかにすることができた。

算数

算数科における自らの学習を振り返ることのできる児童の育成 ーふきだしを活用し、考えを比較することを通してー

いすみ市立大原小学校教諭 ^{たかおか} 高岡 ^{けんしん} 顕慎

ふきだしを使って思考を記録させる。そして、スタートふきだし、キーふきだしを選択し、本時の自分の思考の流れを明確にさせる。それを基にこれまでと今の自分の考えや自分と友達の考えを比較させ、学習感想を書かせるという手立てを講じることは、自己の変容に気付くという、自らの学習を振り返ることのできる児童の育成のために有効であることが分かった。また、実践を通して、「分からないことが分かるようになった」「最初の考えがやっぱりいいことに気付いた」「自分よりもっといい考えに気付いて考えが変わった」「友達の考えを聞いて考えが広がった」という変容に気付く具体的な姿を捉えることができた。

理科

自己の将来につながる理科教育の在り方 ーキャリア教育の視点を取り入れた、4年生「とじこめた空気と水」の指導を通してー

成田市教育委員会教育指導課指導主事（前成田市立成田小学校教諭） ^{いはし} 伊橋 ^{たつや} 辰弥

理科を生かした職業に就きたいと思う児童生徒は、国際的に見て少ない傾向にある。そこで、小学校第4学年「とじこめた空気と水」の単元において、キャリア教育の視点を生かした授業開発を行った。基礎的・汎用的能力を位置付けて単元を構成し、学習内容を生かした消防・救助器具の映像教材を取り入れて検証授業を行った。その結果、学習で身に付いた力を実感し、学習したことが身の回りの科学技術に生かされていることを知り、自分が将来就きたい職業と理科との結びつきを見いだそうとする児童が増えたという結果が得られた。なお、本研究で作成したデジタル教材は、報告書記載のWebからダウンロードが可能となっている。

美術

当事者性のある主題設定とデジタル活用をした鑑賞活動 —思考力・判断力・表現力を育む題材研究—

船橋市立飯山満中学校教諭（前船橋市立宮本中学校教諭） おおはま みき 大浜 美樹

船橋市内の児童生徒を対象に休校支援題材として、今の思いを表現する「四つ葉のクローバープロジェクト～未来へのメッセージ～」をインターネットや動画を活用して実践した。表現活動では、自ら主題を生み出すなど主体的に取り組んだ。鑑賞活動では、言語活動を通して自分なりに価値付けたり、多様な社会を理解して思考したりする力を育むことができた。次年度に向けて、GIGAスクール構想に伴いGoogle classroomを活用したデジタル写真題材「私の船橋ストーリー」を計画した。ポスト・コロナ時代において、当事者性をもって主題を設定することや、更に継続したデジタル活用をした研究を続けていく必要があることが分かった。

体育

ゲーム「ゴール型ゲーム」における思考力、判断力、表現力を高める体育学習の追求 —プレイ中の状況判断を促す指導法に着目して—

松戸市教育委員会保健体育課指導主事（前松戸市立小金小学校教諭） こうぐち あきら 幸口 英

本研究では、小学校3年生を対象に思考力、判断力、表現力を高めることを意図して、ボール操作と状況判断を易しくしたサッカー型ゲーム教材を開発し授業実践を行った。シュートの状況判断を明確にする逆V字型ゴールや落ち着いてパスの状況判断ができる5角形フリーゾーンなどの教材の工夫、ゲームキャッチフレーズの活用などの状況判断を促す教師の相互作用行動を手立てとした。その結果、児童がゲーム中に適切な状況判断でプレイする素地が養われ、学習内容とゲームで得た経験を結び付けて文字や発話で表現する変容が確認された。以上のことを踏まえて、教材・教具の工夫と教師の働きかけが、ゲーム教材における思考力、判断力、表現力を高めるために重要であることが明らかになった。

保健体育

中学校体育授業におけるグループ学習と学級集団意識の関連性 —生徒間コミュニケーションに着目して—

習志野市立第五中学校教諭（前習志野市立第四中学校教諭） くわばら みわ 栞原 美和

中学校において、体育授業と学級集団意識の間に関連性があるのかを明らかにすることを目的とした。その上で、「集団的達成課題の設定（球技・バレーボール）」「肯定的な言葉かけ（ペップトーク）」「意図したグループ編成（学級担任との連携）」を手立てとした体育授業を行い、これらが体育における学習成果と肯定的な学級集団の育成に及ぼす影響を検証した。その結果、学級集団意識の「集団凝集性」と「学習意欲」において、単元前後を比較すると向上が見られ、運動技能も向上した。「集団的達成課題」と「肯定的な言葉かけ」に重点を置き、学級担任との連携を図った体育授業は、中学校においても、授業の質が高まり、学級集団意識に肯定的な影響を与えることが明らかになった。

道徳

自尊感情を育む総合単元的な道徳プログラム

ー共有体験や常時活動を取り入れた「認め合える道徳授業」を通してー

船橋市立豊富小学校教諭（前船橋市立飯山満小学校教諭） おがさわら ゆか 小笠原 由香

本研究では、自尊感情の定義を「あるがままの自分自身を受け入れ、自分をかけがえのない存在として、丸ごとそのままに認める感情」とし、自分を大切に思う気持ち、今の自分でも大丈夫という安心感、より良く生きたいという前向きな気持ちを育むために、道徳の授業を要とした総合単元的な道徳プログラムを構成した。

また、自尊感情を二つの感情（社会的自尊感情と基本的自尊感情）に分け、特に自尊感情を支える基礎となる基本的自尊感情にアプローチするため、共有体験（体験の共有と感情の共有）と常時活動を連動させた「認め合える道徳授業モデル」を作成しプログラムに組み込み、その効果を明らかにした。

特別活動

児童の危険予測能力・危険回避能力を育てる防災教育の在り方

ー学校・家庭・地域が連携・協働する防災教育モデルプランづくりを通してー

香取市教育委員会学校教育課指導主事（前神崎町立神崎小学校教諭） おおたけ まさし 大竹 雅史

児童の危険予測能力・危険回避能力を効果的に育てるための防災教育モデルプランを作成し、その効果を明らかにするため、主に小学校高学年の児童を対象に、防災・減災の知識と判断力を育てる防災授業や、それに関連させたアクシデント型避難訓練を行うとともに、学校・家庭・地域の連携・協働を推進するモデルづくりを行った。

その結果、児童の危険予測能力・危険回避能力や防災意識の向上が明確となった。このことから、防災教育モデルプランを作成して学校・家庭・地域が組織的に取り組み、それぞれの児童に対する働きかけの相互作用や相乗効果をねらうことで、危険予測能力・危険回避能力を効果的に育てられることが明らかとなった。

知的障害

知的障害特別支援学校高等部における防災教育の在り方について

ー自分の命を守る力（自助）を高める防災教育の構築ー

県立八日市場特別支援学校教諭 おおたけ かずのり 大竹 和則

喫緊の課題である災害から命を守る防災教育において、地震と津波に焦点を絞った授業を実践した。児童生徒の居住地にある、津波避難タワーの紹介VTRを作成し授業で用いたり、東日本大震災の際に、地元へ押し寄せた津波の動画を使用したりと、地域の特性を生かした八日市場特別支援学校独自の教材を作成し活用した。さらに、津波の速さ（時速36km）と競争する体験的な活動も実施し、津波の速さを体感できる実践を取り入れた。その結果、地震・津波に対する防災の知識・理解、行動力や判断力を深めることにつながった。

また、作成した防災チェックシートを教員が活用することで、個々の生徒の防災に対する実態把握に役立つことが明らかになった。

特別支援教育課題

ユニバーサルデザインに基づく教室環境と授業改善の有用性に関する検討

習志野市総合教育センター指導主事（前習志野市立大久保東小学校教諭） ^{たかはし}高橋 ^{だいご}大悟

ユニバーサルデザインに基づく教室環境の整備や授業改善が通常の学級における児童生徒の学習参加や注意集中に及ぼす影響を明らかにすることを目的に、環境と授業のユニバーサルデザイン化の前後で、3年生と6年生の全児童への質問紙調査と1学期と2学期の授業をビデオ撮影したものを比較分析した。また、検証授業を行った学級担任へのインタビュー等を通して、その効果の検証を行った。ユニバーサルデザインを基にした教室環境や授業改善の結果として、定型発達児、教員の気になる児童（グレーゾーン含）、発達障害のある児童を含む全ての児童の注意集中や学習意欲の向上等が確認され、教育のユニバーサルデザイン化の有用性が明らかになった。

企業等派遣

職業自立・社会自立に必要な生徒の資質・能力の育成 —企業が求める人材の育成—

県立特別支援学校流山高等学園教諭 ^{こえだ}小枝 ^{ゆきえ}有希恵

本校は、軽度の知的障害をもつ生徒が通う特別支援学校であり、卒業後の就労を目指している。生徒は日々の専門教科に取り組んだり現場実習を行ったりして必要な力を付けている。しかし、卒業後に働き続けることへの困難さや課題に直面することが多々見られている。「企業が求める人材」とはどのような人物なのか。株式会社高島屋柏店での研修では、接客を中心に行い、従業員の方からの声や人事担当の方の考えや意見も聞くことができた。研修を通じて、「作業の生産性以上に人間性が重要」であることや、これからの生徒には「考える力」や「自己理解」が必要な資質・能力であることが分かった。今後も、教師同士が情報共有をしながら、学校生活全体を通じて指導・支援をしていきたいと考えている。

企業等派遣

球団の組織マネジメントの手法をこれからの学校経営に生かす

東金市立北中学校長（前大網白里市立大網東小学校教頭） ^{きかわ}木河 ^{まさひろ}政浩

今日、学校は新たな視点で組織マネジメントを構築して、新しい時代を見据えた学校経営を推進することが求められる。派遣先の株式会社千葉ロッテマリーンズは、「スポーツ文化への貢献」「地域への貢献」「社会への貢献」を企業理念に掲げ、様々な地域振興活動に取り組んでいる。私は、球団の地域振興活動の体験等を通して、球団の組織マネジメントの一端を学ぶことができた。中でも、危機管理、情報共有とコミュニケーション、業績評価と進捗管理、業務改善、人材育成と研修体制、外部人材活用と地域・諸機関との連携に関して、多くの知見を得た。また、多様な地域や業種の方との出会いは、貴重な財産となった。本研修で得たことを教育現場に還元し、お世話になった方々へのお礼としたい。